

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	B型肝炎患者・家族による患者講義の方法および内容に関する検討				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	田中 範佳
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	操 華子
		所属・職名	B型肝炎訴訟弁護団	氏名	西田 敦
		所属・職名	B型肝炎訴訟弁護団	氏名	勝俣 彰仁
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	田中 範佳

講演題目	B型肝炎患者・家族による患者講義の方法および内容に関する検討
------	--------------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>B型肝炎の感染拡大の原因である集団予防接種等の際の注射器等の連続使用に関する問題について、学部基礎教育において薬剤投与をはじめ、予防接種の手技について器具の取扱いや感染防止策や感染症の正しい知識・技術の教育が行われている。しかしながら、B型肝炎の感染拡大の原因である集団予防接種等の注射器の連続使用が原因で経済的・精神的に著しく辛い生活を余儀なくされているB型肝炎に感染した患者や家族への差別・偏見について患者や家族の声を聞く機会は乏しい。文部科学省より医学教育等に関する各種要請としてB型肝炎患者等の声を直接聞く授業の実施に関する通達 がされ、取り組みの必要性が強く求められている。看護学部では必修科目である看護と倫理で平成29年度よりB型肝炎に感染した患者や家族による患者講義を開始した。また、令和2年度から全学共通科目の生命倫理にて実施を行なった。そこで、B型肝炎患者等の悩みや苦しみについて学生が十分に理解できたか、B型肝炎に感染した患者や家族による患者講義の方法および内容について検討することを目的とした。</p> <p>結果、54名の学生が受講し、43名からレポートの提出があった。レポートの内容では、B型肝炎について聞いたことはあったが、感染拡大の原因が集団予防接種にあるとは知らず、大変驚いた記述が半数以上の学生に認められた。また、B型肝炎患者・遺族の話聞き、苦しい治療を受けることだけでなく、理不尽な差別を受けることの辛さ、人生を大きく狂わせてしまう恐ろしさを理解した記述が含まれていた。B型肝炎の基本的な知識がないために、どのように関わりを持ったら良いかわからなかった、もしかしたら自分がB型肝炎に感染しているのかもしれないという記述も散見された。患者・遺族の話を通じて、辛さ、悔しさなどの思い、二度と起こしてはならない問題であるとほぼ全員がレポートに記述し、共感するだけでなく関心を抱くことに繋がったと考えられた。さらに、情報化社会における情報の取り扱いや得た情報の取捨選択には知識が必要であり、考えることが重要であることの記述が多く、学生が自ら考える機会になったと考えられた。</p> <p>B型肝炎の感染拡大について、学生のレポートからB型肝炎の感染拡大の事実について知る機会になったことやB型肝炎による被害について知る機会になったこと、患者・遺族が抱く辛さ、悔しさなどの思いに対する記述も相当数含まれていたことから、多くの学生が共感できたと思われる。B型肝炎に関する歴史的事実に関して、二度と起こしてはならない問題と認識し、学生が自ら考える機会になったと考えられた。</p>
-----------------	--